みの MINO EDO
東京⇌笠原情報誌 MAIL版

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
tilesea.ms@gmail.com

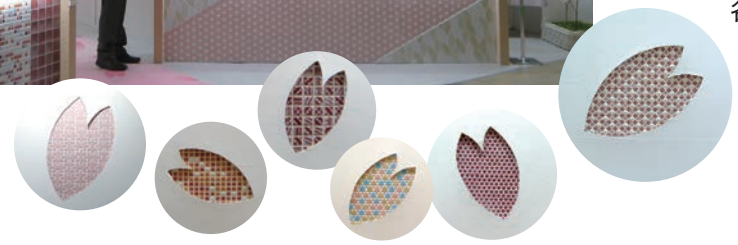
＊協議会のウェブサイトでも公開しています。

NO 226
2022.3.28

特集

建築・建材展 セラミックタイル美濃2022

「未来の希望を育むタイル」

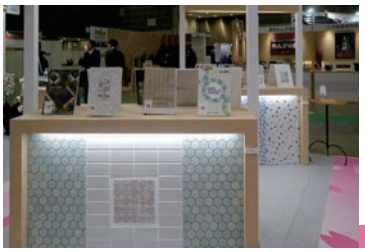


3月1日（火）～4日（金）の4日間、第28回「建築・建材展 2022」が東京ビッグサイト（東京都江東区）にて開催された（主催：日経新聞社）。住宅・店舗・各種施設用の最新建材や設備機器、ソフトウェア、工法などを幅広く紹介する建築総合展。

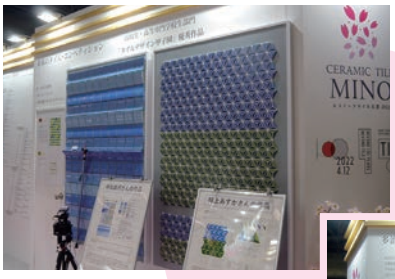
多治見市美濃焼タイル振興協議会が主催し、会員企業が参加する「セラミックタイル美濃2022」の展示内容を紹介する。

セラミックタイル美濃2022

テーマは「未来の希望を育むタイル」。「不変」かつ「普遍」のタイルという素材がもつ癒しの力で、平穏で希望あふれる未来を育んでいく、という願いを込めた。デザインは白を基調とし、昨年に続き桜のイメージを採用。所々に桜の花をあしらい、春の到来を感じさせる一角となった。



受付が置かれた中心となるブースには、各社カタログを用意。



「タイルデザイン甲子園」優秀賞2作品の試作タイルを展示。

多治見市内のタイル業界と多治見市陶磁器意匠研究所が共同で3Dスキャナーの効果的活用方法を探る研究会を開催。タイルの試作を行なった。

4/12 「タイル名称統一100周年」をPR

アンケートの回答者にロゴ入り布バッグを贈呈。

世界に踏み出していこう！

初日に多治見市長・古川雅典氏が挨拶。「11月に竣工する多治見駅前の再開発でもタイルを目立つ場所に使おうと協議しています。タイル名称統一100周年を契機に、世界に踏み出していきましょう」

「セラミックタイル美濃」各社ブース

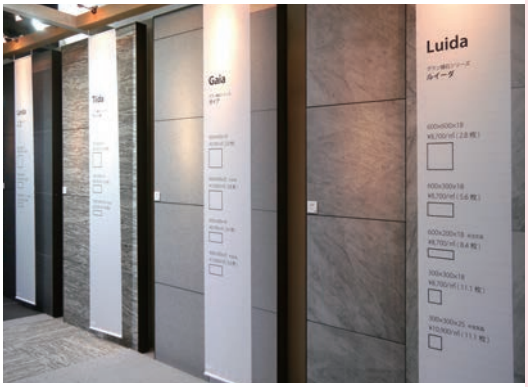
1月21日から実施された「まん延防止等重点措置」が延長される中での開催。来場者数は昨年より増加した。

今年は15社が出展。通路には鉢植えの桜の花が置かれ、春の街角をそぞろ歩くように、各社のブースを巡る趣向。「街」に彩りを添えるように、形や大きさ、色も多様な新製品や試作品のタイルが並んだ。

各ブースで配布する企業カードを３枚集めた方にタイルコースターキットを贈呈。

(株)アイコットリョーワ

「グラン舗石シリーズ」は、駐車場にも施工可能な18mm厚の大型タイルで、最大サイズは600mm×600mm。中国の自社工場で製造する。下地に常温アスファルト合材を用いて施工する「タイルファルト工法」を名古屋工業大学、企業3社と共同開発。同工法により、大型タイルのひび割れを防ぎ、施工時間の短縮を実現。4月に新柄を発売予定。



(株)エクシィズ

「ecoRevo®」は、25年以上にわたる研究を元に生まれたリサイクルタイルのプロジェクト。「溶融スラグ」と呼ばれるガラス状固形物や、企業廃棄物を原料としたタイルを開発。低温焼成が可能でCO_2削減ができるほか、枯渇が進むタイル原料の節約ができるメリットも。「カーパ」は21色という豊富な色数。

(株)カネキ製陶所

タイルが土から生まれることからイメージし、ブースの壁にはグリーン、床にはベージュを配色。「アイラスト」は、「さび色」を意味する商品名で、焼きものらしい色むらを再現。定着した人気の「古窯変シリーズ」は、日本の伝統色からモダンなカラーまで色も豊富で、形状も多種を揃える。

三協製陶（株）

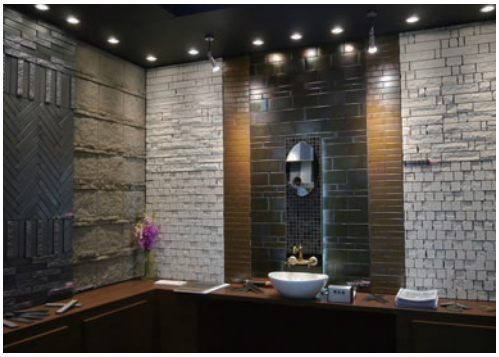
新製品や試作品のタイルは、それぞれ個性的な色合いや質感をもつ。「ウッドモザイク」はその名のとおり、木目模様がついたタイルで、6色を揃える。「ルーヴェンス」は、鮮やかな色の絵の具で描いたようなデザインで、5色を揃える。

杉浦製陶（株）

社員の多くがデザインを担当、多彩な試作品が並ぶ。「LANCRU2」は、土らしさを残したタイルに、カラフルでラフな手彩色を施したもの。「くさばな」は身近な草花を3Dスキャンし、その形を凹凸で表したタイル。一輪挿しや時計などの雑貨も展示。

鈴製陶（株）／（有）丸万商会

鈴製陶（株）



ホテルやホールを思わせる重厚感のある室内空間を表現。これまでは主に無釉タイルを製作していたが、今回は施釉タイル「稀彩シリーズ」をメインに展示。金属のような虹色の光沢が特徴的。1250度という高温で焼成するため、酸性雨でも色落ちすることがない。

（有）丸万商会

家で過ごす時間が長くなる中、タイルを使用した居心地のよい室内空間を提案。「カクテル」は、1枚のタイルに2色の釉薬を施したタイルで、やわらかな色合いと土の表情との組み合わせが温かみを感じさせる。ベージュ系、濃い茶系と2種類を揃える。

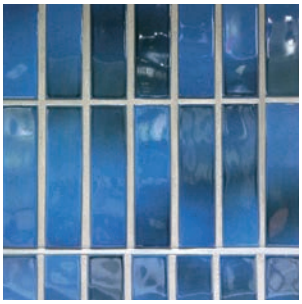
(株)セラメッセ

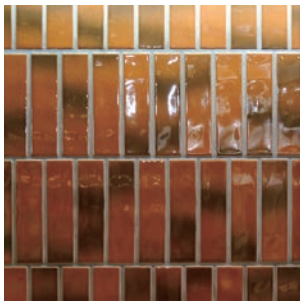
手軽に施工できる工夫を施した商品を紹介。「Mimi」と「AYA」は、手間のかかるヘリンボーン張りをシート形状にした商品。「Mimi」は明るくビビッドなビタミンカラー。「AYA」は押し花で模様をつけたタイルがやわらかな印象。施工の容易なサイディングとタイルを一体化したパネルも開発。

(株)谷口製陶所

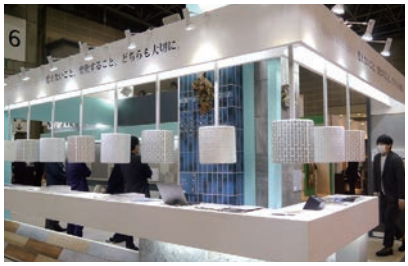
乾式製法のタイルのほか、焼きものらしさがある湿式製法のタイル、補修のためのタイルも製作。落ち着いた色調、土らしさを残したタイルは、木造建築にもしっくりと合う。「NAVAJO～ナヴァホ」はアメリカの原住民の名をつけたタイルで、グレーを基調に、淡い色合いを揃える。

(株) Tchic



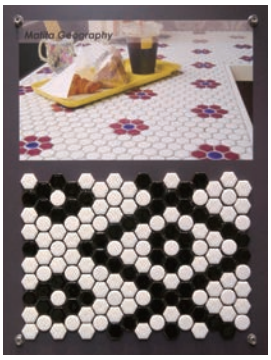


テーマは「変えないこと、変化すること、どちらも大切に」。モザイクから大判まで多種多様なタイルを展示。「キャナル」は、「運河」を意味し、色と面状に水面のような揺らぎを表現。青系とオレンジ系の2色を揃える。2022年、色と質感にこだわり抜いた少数限定生産のブランド「unlimited」をスタートさせた。



長江陶業(株)

地元多治見から海外まで複数のメーカーのタイルを扱う商社である一方、自社で企画したオリジナルの商品が商品全体の7割を占める。ブースでは45種のタイルをセレクトして紹介。1枚のパネルに実物のタイルと施工した様子の写真がコンパクトにまとまり、イメージがわきやすい。

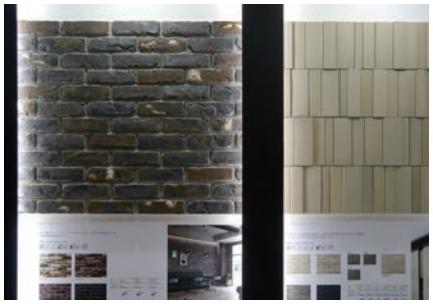


名古屋モザイク工業(株)

テーマは「バイオフィリックイノベーション―自然との共生と技術革新―」。公園をイメージした壁面には、セラミックタイルのほか、大理石など素材も様々なタイルを展示。桜の木を描いたカウンターの幕板は、大型タイルを加工して制作。花びら部分には麻の葉タイルがはめ込まれている。

ニッタイ工業(株)岐阜工場

湿式タイルの製造工程紹介ほか、6種類の製品パネルを展示。「オールドマイスター」は、職人が手作業で色をつけ、本物のれんがの表情を追求。輸入タイル「ルジーナ」はインクジェットで古びた鉄板のような風合い。「ウイルテリア加工」は既存のモルタル製品に抗菌・抗ウイルス・抗アレルゲンの機能を付与できる。

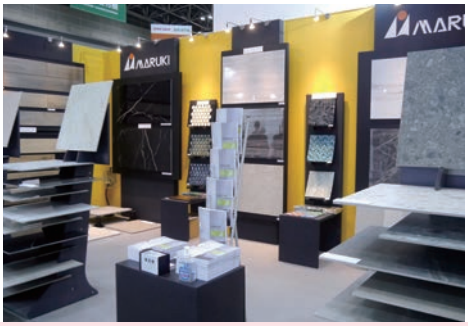


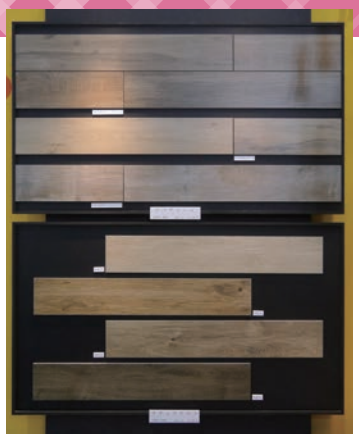
藤垣窯業(株)

木造住宅の外壁に手軽にタイル外装を施すことのできるパネル材「MExT」を考案。ガルバリウム鋼板とタイルのコラボを想定し、板金職人による施工が可能。使用するタイルは600mm×300mmのサイズで、美濃焼タイル58種のほか、輸入タイル71種を揃える。8月に岐阜県土岐市で、施工現場見学会を開催予定。

(株)丸 喜

商業施設から住宅まで幅広く使用できる大型セラミックタイルを展示。木目調タイル「アヴァディーン」は木材の専門家も驚くほどの本物らしい質感。滑りにくい仕上げや、色調が統一できるという天然木に勝るメリットがある。「ガイヤ モデル20T」は、20mm厚の石調タイルで車の走行も可能。ガレージをおしゃれに演出。





今年1〜3月に開催された展示やイベントをご紹介。

シュ・ニン（許寧）「天下（WORLD）」

3月5日（土）〜26日（土）
小山登美夫ギャラリー天王洲

国境やジャンルにとらわれず幅広いアーティストを紹介する小山登美夫ギャラリーが、TERRADA ART COMPLEX（東京都品川区）に新ギャラリーをオープン。第一回展覧会として、シュ・ニン展「天下（WORLD）」が開催された。シュさんは北京出身で、現在は神奈川県を拠点に制作活動を行なうアーティスト。これまで絵画作品を制作してきたが、今回の展覧会は陶板を用いた作品を中心に構成。陶板は交通総合文化展2021年の招待作家として、3カ月間「クアーレ熱海ゆがわら工房」で制作したもの。タイトルの「天下」についてシュさんは「人類全体の天下のことで、共存、共栄の世界のことです」と語る。色や模様、形、大きさも一つとして同じものがない陶板が、その豊かな世界観を表現していた。

©Xu Ning　photo by Kenji Takahashi

作品のサイズは約20〜110cm。2点の絵画作品とともに展示された

From 東京

ミニ情報

東京藝術大学 美術学部卒業・修了制作展が1月28日（金）〜2月2日（水）にて開催。タイルを使った作品を発見！

グッド フィーリング プールサイド：plot 桐原由利衣さん

企画展「銭湯幻視—モザイク湯」コレクション探訪 with こだんみほ

2月11日（金）〜3月27日（日）
多治見市モザイクタイルミュージアム

From 多治見

ぷっくりとした立体感や光沢感は本物のタイルのよう。グラフィックアーティスト・こだんみほさんは、タイルを描いた上に樹脂でコーティングするという独自の技法によって作品を制作。モチーフとするのは実在する（した）銭湯や町中のモザイクタイルだ。実物より小さなサイズで細やかにつくられた作品に、来場者からは「可愛い！ 欲しい」という声が上がった。ミュージアムの収蔵品を元にした新作も披露されたほか、作品のモチーフとなったタイルを収蔵品から探し出して展示するという試みも。日常的なタイルを一枚の絵として見ることで、その魅力や存在感を改めて感じ取った人も多そうだ。

こだんみほ〈女湯 引戸〉2021年

こだんみほ〈呉竹湯〉2020年

タイル100周年プレイベント「みんなで作ろう 可愛いタイルのおやつ」

2月5日（土）
笠原ショッピングプラザマイン

タイル模様のアイシングクッキー作りのワークショップ（主催：美濃焼タイル女子会）が開催された。蓮沼あい先生を講師に迎え、10名が参加。最初に「タイルミニ講座」として、タイルの生産過程の解説がされた。クッキー作りでは、絞り袋を使って様々な種類の線や形をアイシングで描くコツを先生が伝授。各自が自由に描き、個性あふれるタイルクッキーが完成した。「最初は描けるかなと心配でも、始めてみればどんどん描き込みたくなる。タイルクッキーには不思議な魅力がありますね」と蓮沼先生。参加者からも「初めてだけど、意外とうまくできた」「きれいにできたので、しばらく飾っておく」と好評だった。

サイズは70mm角。食べるのがもったいないほどの出来！

アイシングで模様を描く。

昭和の時代の45mm角の輸出用タイル。このスケッチを元に蓮沼先生がクッキー見本を制作。

タイル名称統一100周年

各地で関連イベントを開催！

4月12日に迎える「タイル名称統一100周年」を記念し、今年は関連の展示やイベントが数多く開催される。4月からは3館のミュージアムで企画展がスタート！

BEYOND 100 YEARS
BEYOND TILE

「タイル名称統一100周年」

1922（大正11）年4月12日、東京・上野での「平和記念東京博覧会」に際して開かれた「全国タイル業者大会」において、建築を被覆するやきものの呼称が「タイル」に統一された。博覧会ではタイル張りの住空間が大々的にアピールされ、1922年は日本のタイル史に刻むべき特別な年となった。

特設サイト
公式サイト
https://touchthetiles.jp/
Instagram
https://www.instagram.com/touchthetiles/

INAXライブミュージアム

4月9日（土）
8月30日（火）

日本のタイル100年
美と用のあゆみ

瓦の伝来に始まる日本のタイル文化を振り返りながら、名称統一を起点として、台所、トイレや洗面所、銭湯・温泉、ビルや大学、地下鉄の駅、たばこ屋など、様々な場で多種多彩に使われてきた日本のタイル100年のあゆみを時代背景とともに紹介する。

小森忍が山茶窯（愛知・瀬戸）で制作したタイル

イギリス製の組絵タイルを手本に日本のタイルメーカーが制作したもの

撮影：梶原敏英

4/12（火）
展覧会開催記念オンラインシンポジウム
「タイルのこれまでとこれから」

ゲスト：藤森照信氏（建築史家、建築家。東京都江戸東京博物館館長、多治見市モザイクタイルミュージアム名誉館長）、若林 亮（株式会社日建設計 フェロー役員 デザインフェロー）
＊参加費無料。申込要（詳細は同館ウェブサイトにて）

INAXライブミュージアム
愛知県常滑市奥栄町1-130
休館日：水曜日 ※5月4日（水・祝）は開館

3館共同の巡回展！
藤森照信氏が監修し、3館共同で企画。会場ごとに異なる展示構成で巡回する。

巡回予定
・2022年9月17日～　多治見市モザイクタイルミュージアム
・2023年3月11日～　江戸東京たてもの園

多治見市モザイクタイルミュージアム

4月9日（土）
9月4日（日）

「タイル」までのプロローグ
手わざの時代の陶磁製建築装飾

100年前に起きた「タイル」変革と、その序章（プロローグ）に焦点をあて、手わざを生かした明治、大正時代の敷瓦や陶磁板などを紹介。名称が統一される前の時代の「タイル」が日本的な表現を摸索し、試行錯誤を重ね、当時の技術の粋を集めて作られていたことを伝える。

京都市陶磁器試験場「布目金彩牡丹文タイル」大正7年頃 滋賀県工業技術総合センター蔵

商工省陶磁器試験所「藤と松の浮彫陶板」昭和4年 滋賀県工業技術総合センター蔵

多治見市モザイクタイルミュージアム
岐阜県多治見市笠原町2082-5
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

大阪歴史博物館

4月20日（水）
6月27日（月）

タイルとおおさか
—日本における「タイル」名称統一100周年—

1922年の名称統一はタイルが普及する契機となり、大阪でも鉄筋コンクリート構造建築の広まりや衛生意識の向上とともに、学校や銭湯、百貨店などでタイルが使用された。多種多様な収蔵品を通じて都市おおさかの建築を紹介する。

美章園温泉モザイクタイル 昭和時代

宇治電ビルディング神像テラコッタ 昭和12年

いずれも大阪歴史博物館蔵

大阪歴史博物館
大阪市中央区大手前4丁目1-32
休館日：火曜日 ※5月3日（火・祝）・5月6日（金）は開館